

2004年3月期 決算説明会



八千代工業株式会社(7298)

YACHIYO INDUSTRY CO.,LTD.

2004年5月12日

ホームページ: <http://www.yachiyo-ind.co.jp/>

問い合わせ先: 事業管理室 栗原 義弘
e-mail: yoshihiro_kurihara@yachiyo-ind.co.jp
TEL (04)2954-7331

決算報告

常務取締役
管理本部長

杉山 幸右

中期経営計画と今期見通し

代表取締役社長

大竹 茂

参考資料(会社概要)

資料後半部へ添付

2004年3月期 決算報告

連結業績	P 5 ~ 7
連結貸借対照表	P 8
連結キャッシュフロー	P 9
単独業績	P 10
2005年3月期 連結業績(予想)	P 12

第8次中期経営計画の進捗状況と今期見通し

第8次中期経営計画の位置づけ	P 15
第8次中期経営計画 取組みの背景	P 16
第8次中期経営計画のフレームワーク	P 17
中期計画における現状の位置付け	P 18
中期計画との比較	P 19 ~ 21
第8次中期計画の方向性確認	P 22 ~ 29

参考資料(会社概要)

プロフィール	P 32
沿革	P 33
国内拠点	P 34
海外拠点	P 35
事業の特長	P 36
売上構成(2004年3月期・連結ベース)	P 37
直近5年間の連結業績	P 38
完成車事業	P 39 ~ 42
部品事業：燃料タンク	P 44 ~ 50
：サンルーフ	P 51 ~ 53
：補修パーツ	P 54

常務取締役
管理本部長

杉山 幸右

2004年3月期 決算報告

- ◆ 連結業績
- ◆ 連結貸借対照表
- ◆ 連結キャッシュフロー
- ◆ 単独業績

	2003年3月	2004年3月	対前年同期比 伸び率	コメント
売上高	2,255億円	2,497億円	+10.7%	-
完成車事業	1,135億円	1,246億円	+9.8%	生産台数 0.6万台増
部品事業	1,120億円	1,251億円	+11.7%	合志技研子会社化年間フル寄与及び北米増量等
営業利益 (対売上高比率)	39.5億円 (1.7%)	39.1億円 (1.6%)	-0.9%	単独での減益を合志技研子会社化年間フル寄与及び北米での増収に伴う利益の増加等でカバーし、ほぼ前期並み
経常利益 (対売上高比率)	45.2億円 (2.0%)	38.1億円 (1.5%)	-15.8%	関連会社持分利益減及び為替差損による減益
当期純利益 (対売上高比率)	19.0億円 (0.8%)	17.5億円 (0.7%)	-8.0%	前期計上の製品補修損失等がなくなり特別損失の減

売上高

	2003年3月	2004年3月	対前年同期比 伸び率
連結売上高	1,135億円	1,246億円	+9.8%

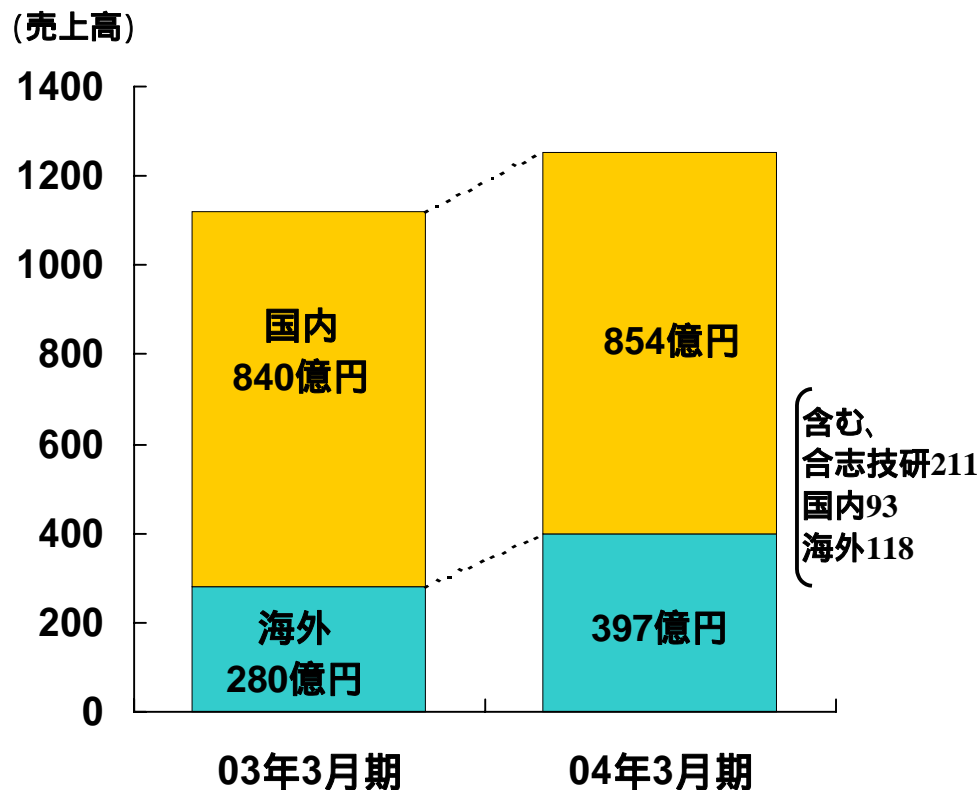
生産台数

	2003年3月	2004年3月	対前年同期比 伸び率
生産台数合計	18.8万台	19.4万台	+3.1%
ライフ	9.9万台	10.3万台	+3.8%
アクティ	8.9万台	9.1万台	+2.3%

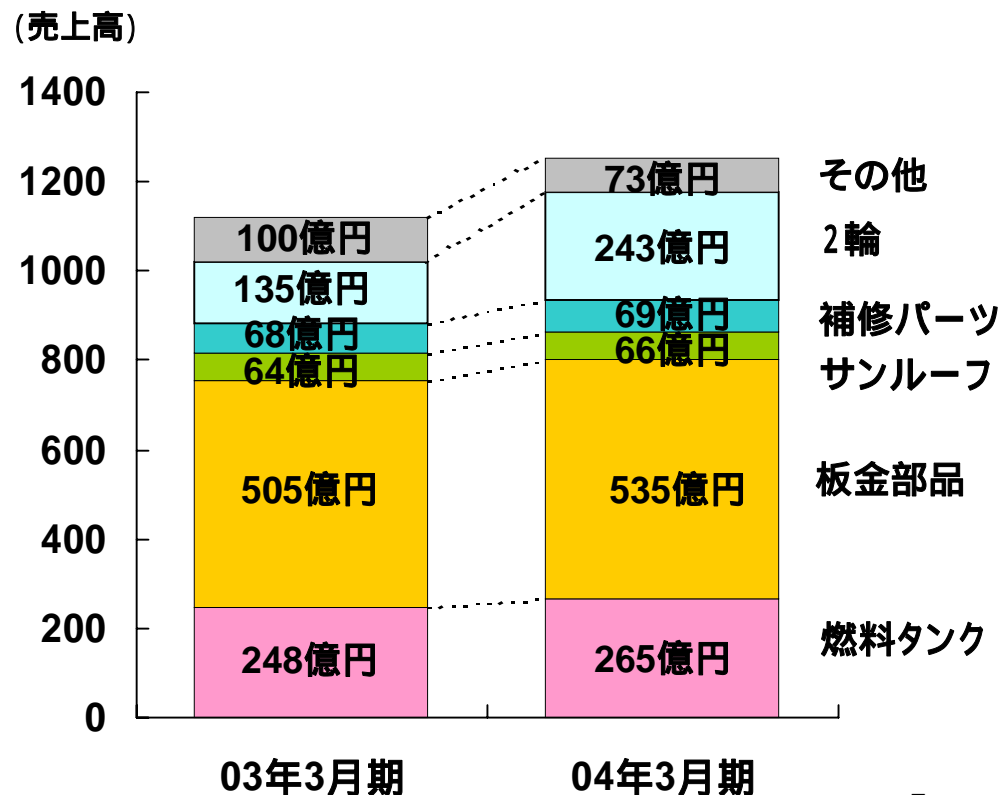
売上高

	2003年4月	2004年3月	対前年同期比 伸び率
連結売上高	1,120億円	1,251億円	+ 11.7%

国内 / 海外区分



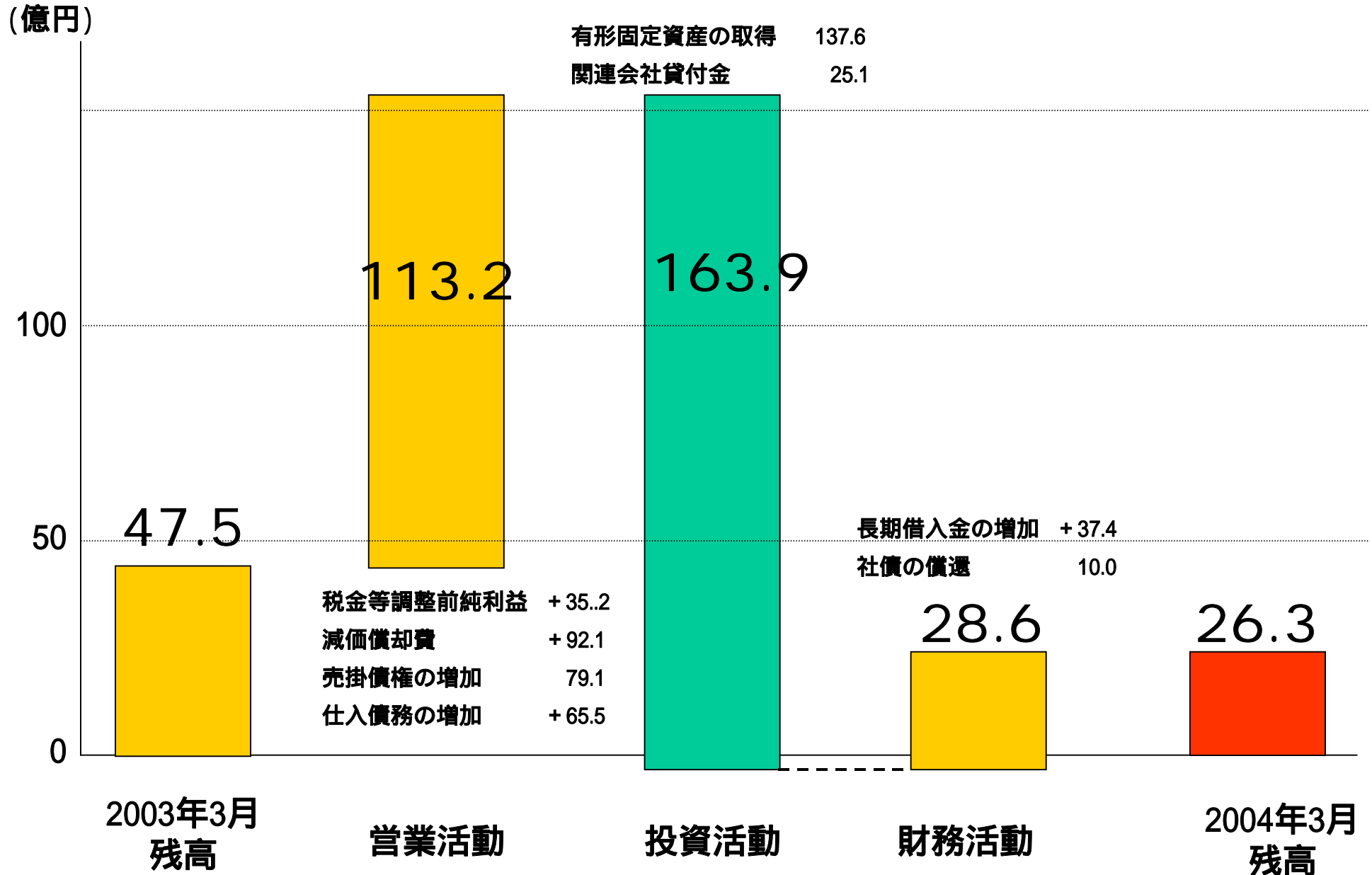
部品別区分



連結貸借対照表

	2003年3月	2004年3月	対前期末比 伸び率	コメント
総資産	929億円	1,049億円	+ 12.9%	主として売掛金増(完成車事業)、関連会社貸付金及び設備投資による有形固定資産の増
株主資本	242億円	259億円	+ 7.0%	利益剰余金の増 12.6億円 有価証券評価差額金の増 4.9億円 為替換算調整勘定 0.5億円
有利子負債	293億円	333億円	+ 13.7%	主として関連会社貸付金及び設備投資のための調達による増
株主資本比率	26.1%	24.7%	-	総資産増加による減
1株当り 株主資本	1,006円	1,078円	-	株主資本増加による増

連結キャッシュフロー



	2003年3月	2004年3月	対前年同期比 伸び率	コメント
売上高	1,955億円	2,034億円	+4.0%	完成車事業 +111億円 部品事業 32億円
営業利益 (対売上高比率)	28.4億円 (1.5%)	12.0億円 (0.6%)	57.6%	減価償却費の増加及び退職給付費用、総報酬制導入による費用の増加等の影響により減益
経常利益 (対売上高比率)	32.8億円 (1.7%)	16.5億円 (0.8%)	49.7%	営業外損益は、ほぼ前期並
当期純利益 (対売上高比率)	14.0億円 (0.7%)	8.7億円 (0.4%)	38.0%	前期計上の製品補修損失等がなくなり特別損失の減

総資産	718億円	858億円	+19.5%	主として売掛金増(完成車事業)、子会社増資、関連会社貸付金及び設備投資による有形固定資産の増
株主資本	244億円	253億円	+3.6%	利益剰余金の増 3.8億円 有価証券評価差額金の増 4.9億円
有利子負債	185億円	259億円	+40.0%	主として増加運転資金、子会社増資、関連会社貸付金及び設備投資のための調達による増

2005年3月期 決算予想

	2004年3月期 実績	2005年3月期 予想	対前年比 伸び率
売上高	2,497億円	2,630億円	+5.3%
営業利益 (対売上高比率)	39.1億円 (1.6%)	46.0億円 (1.7%)	+17.7%
経常利益 (対売上高比率)	38.1億円 (1.5%)	45.0億円 (1.7%)	+18.2%
当期純利益 (対売上高比率)	17.5億円 (0.7%)	23.0億円 (0.9%)	+31.7%

代表取締役社長

大竹 茂

第8次中期経営計画の進捗状況と 今期見通し

(2002年4月1日～2005年3月31日)

第8次中期計画のビジョン

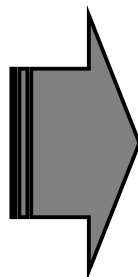
生産活動を通じ
企業価値の継続的拡大を図り、
世の中に存在を期待される
企業となる。

完成車事業

軽で圧倒的な競争力ある生産
体質を構築する。

部品事業

部品事業の生産体質を強化し、
グローバル競争の中で生き残れる
体質を作る。



長期ビジョン

お客様の満足のために
卓越した技術と
特長ある製品を供給する
提案型サプライヤー

完成車事業

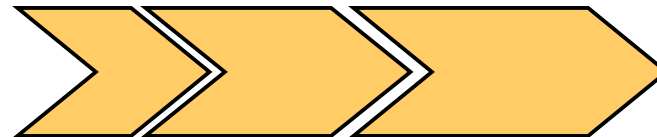
車体骨格部品の設計から生産
まで提案できる製造メーカーへの
展開

部品事業

フューエルシステム・コンポーネントメーカーへ
サントリーの世界トップ3メーカーへ



第8次中期計画
2002/4 ~ 2005/3



【政治・経済・社会一般】

- ◆政治・経済不透明感の強まり
- ◆欧州単一通貨圏誕生
- ◆中国の台頭
- ◆企業不祥事の頻発
- ◆地球環境保護意識の強まり

【自動車業界の動向】

- ◆既存市場飽和により未開拓市場への進出加速
(アジア 特に中国)
- ◆パイの奪い合いで商品の個性化、低コストが加速
- ◆環境対応技術及び商品化の加速
 - ～低燃費実現技術開発
 - ～代替エネルギー製品開発
 - ～リサイクルコース対応技術構築

【求められること】

- ◆地域間最適補完の確立
- ◆新価値商品へのスピーディーな対応
- ◆安全・環境展開
- ◆品質作り

QCDの更なる追求

【部品業界の動向】

- ◆コスト競争に勝ち残る生産戦略の構築
 - ～グローバル調達加速
- ◆環境コースに対応出来る技術の早期構築
 - ～軽量化、リサイクル、代替エネルギー対応

【八千代の取組み】

- ◆地域最適部品補完体制の構築
- ◆多機種に対応できる完成車ライン構築
- ◆環境対応技術の確立と製品化
- ◆品質の革新的向上

全社方針

競争力ある生産体質を構築し、収益力の強化を図る

- ◆ 完成車事業は軽として圧倒的な競争力ある生産体質を構築
- ◆ 部品事業の収益力を強化し、グローバル競争の中で生き残る体質を構築
- ◆ お客様視点で信頼性の高い品質保証体制の確立

完成車事業

- ◆ 生産能力アップ
- ◆ コスト削減

- ◆ フレキシブルラインの導入
- ◆ 塗装工程の効率化（直行率アップ）
- ◆ 組立工数の低減（サブラインの設置）

部品事業

- ◆ 収益性向上
- ◆ 事業規模の拡大
- ◆ 基幹部品事業の拡大

燃料タンク：樹脂タンクの量的拡大とエバポ
規制強化への対応技術開発
サンルーフ：ラインナップの充実とコスト削減
補修パーツ：事業規模の拡大

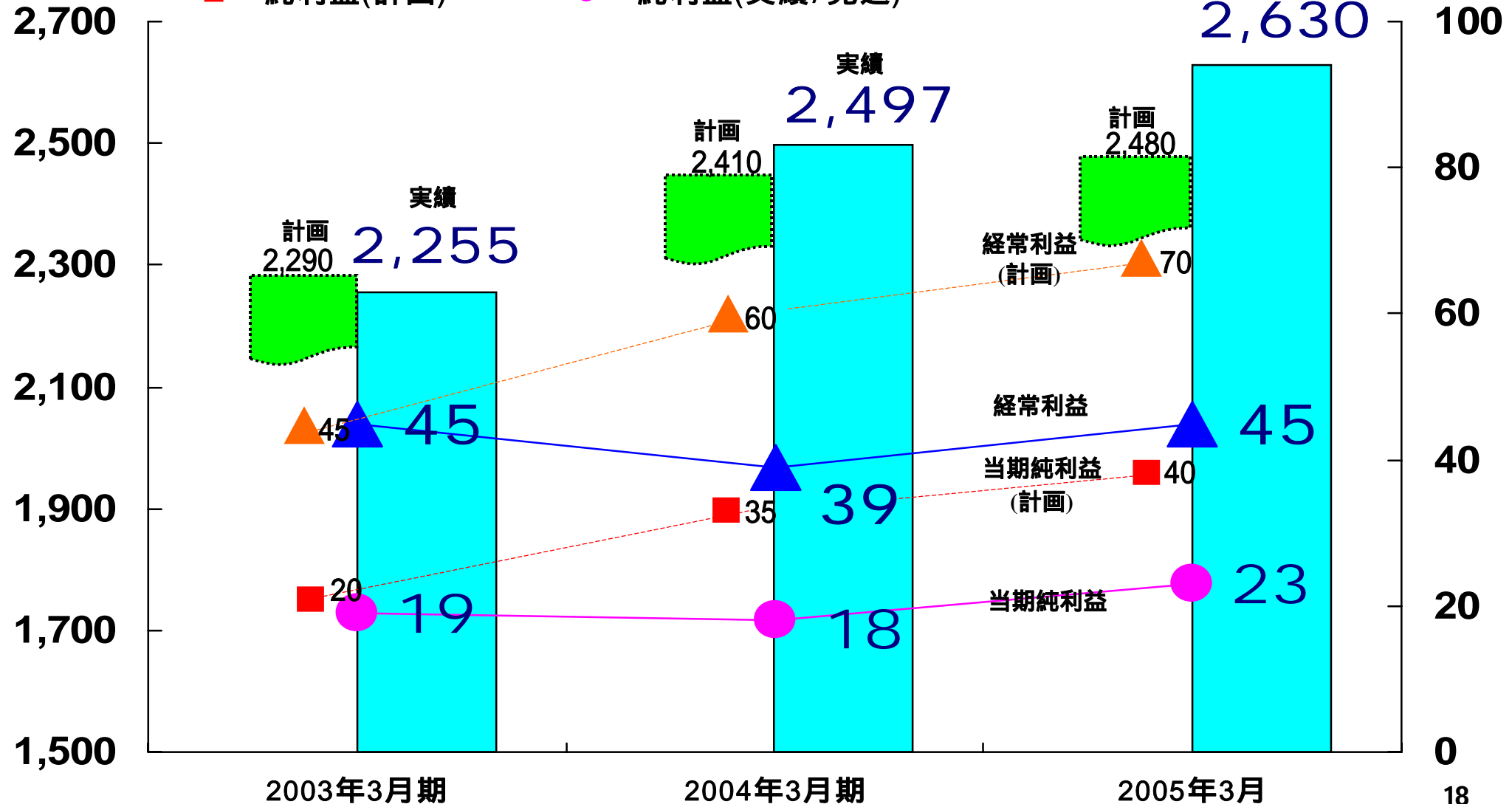
- ◆ 海外拠点の拡充
- ◆ 販路の拡大

中期計画における現状の位置付け(連結ベース)

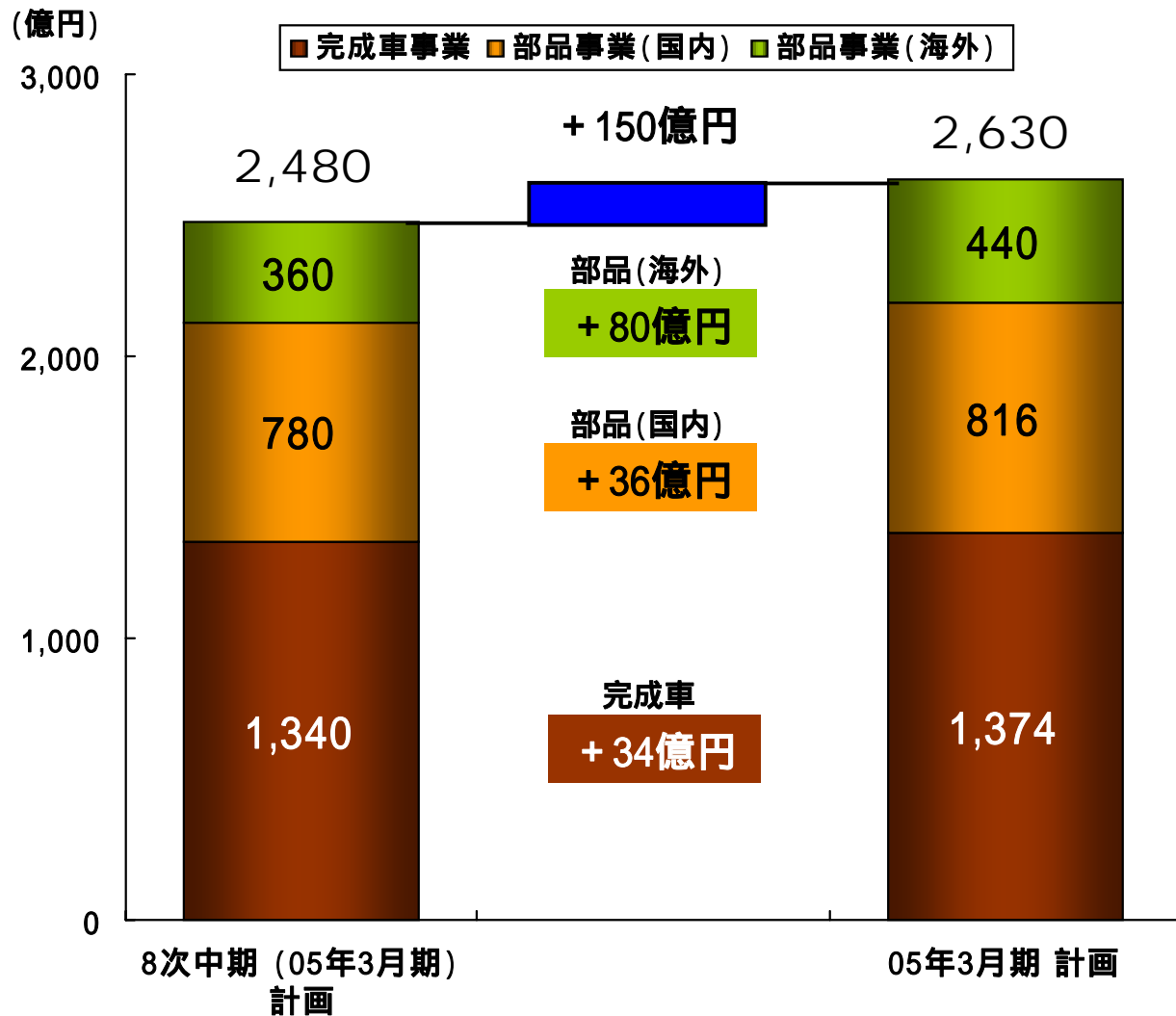
- 売上(計画)
- ▲ 経常(計画)
- 純利益(計画)
- 売上(実績/見込)
- ▲ 経常(実績/見込)
- 純利益(実績/見込)

今回予想 (単位:億円)

2,630 100



中期計画との比較 <売上高> (連結ベース)



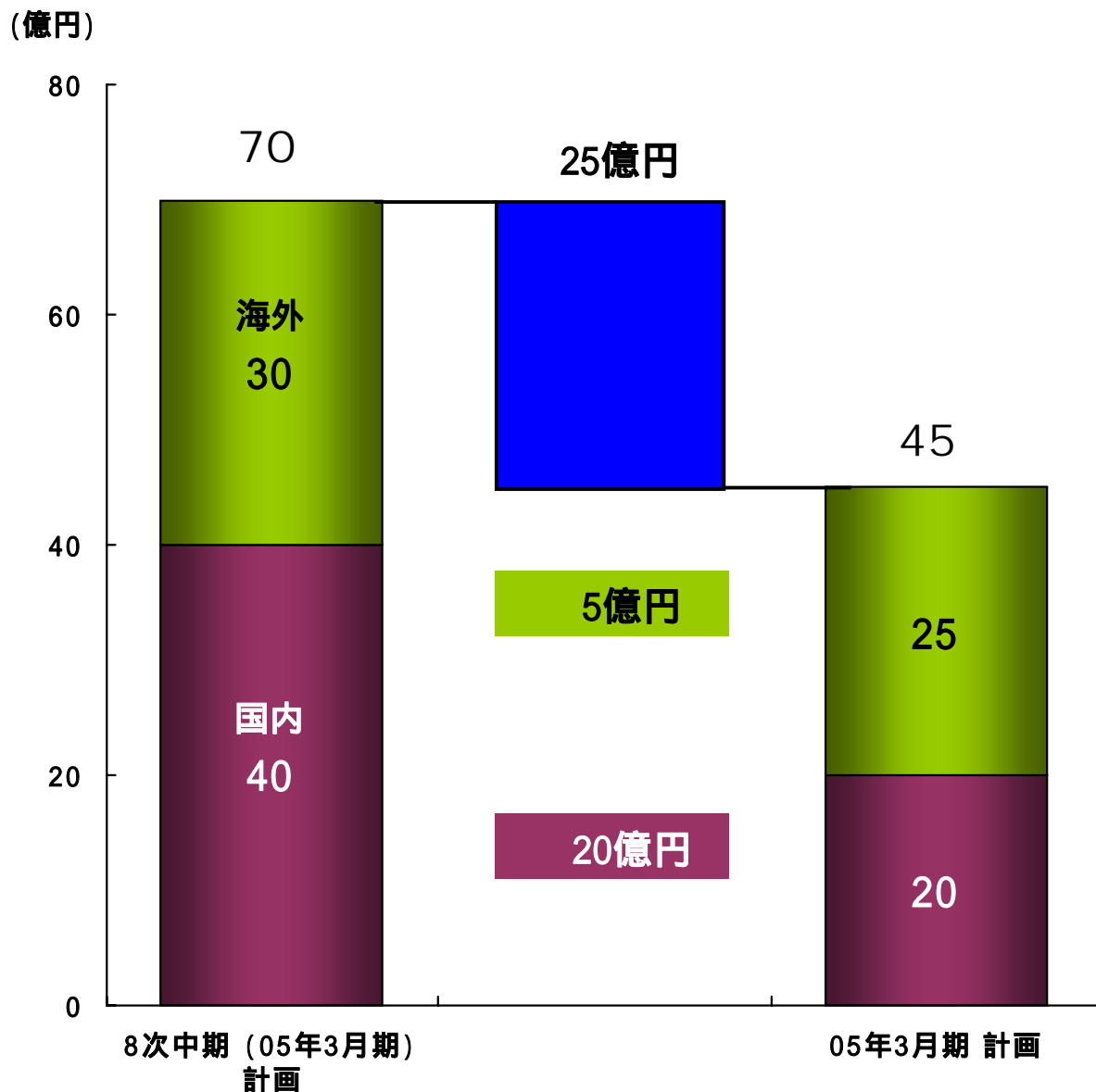
【増減要因】 (単位:億円)

部品事業(海外) +80	
・UYT子会社化中止	117
・合志技研工業子会社化	+213
・生産台数変化及びモデルミックス	21
・為替換算差	+5
部品事業(国内) +36	
・生産台数変化	96
・モデルミックス	+132
完成車事業 +34	
・生産台数変化	134
・モデルミックス	+168

- 生産台数 - 単位:千台

国内	1,370	1,207
(うち軽自動車)	(243)	(219)
海外	2,076	2,067

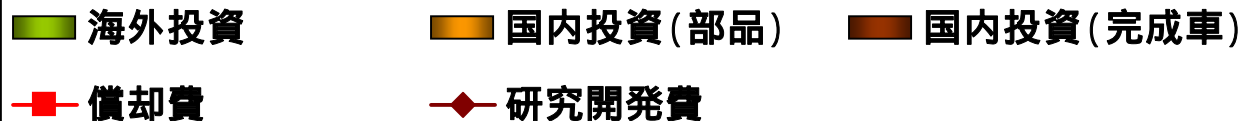
中期計画との比較 <経常利益> (連結ベース)



【増減要因】 (単位: 億円)

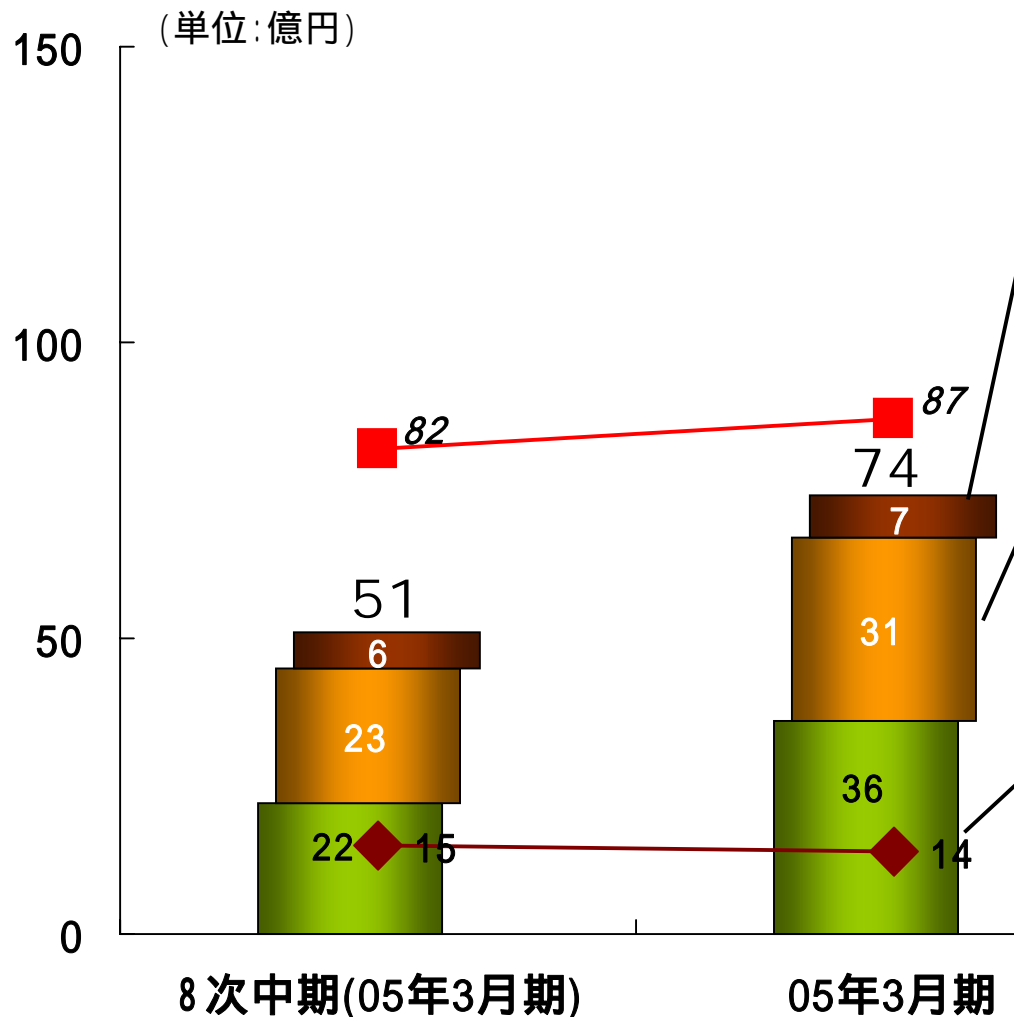
海外	5	
・ 売上減		1.6
・ 設備投資増		3.7
・ 品質対応費用及び立上り費用増		1.2
・ 合理化努力		+ 1.5
国内	20	
・ 生産台数変化及びモデルミックス		6.0
・ 減価償却費及び費用増		7.5
・ 退職給付/社会保険総報酬制		8.0
・ 合理化努力		+ 1.5

中期計画との比較 <設備投資・研究開発> (連結ベース)



合理化 7.4
 更新他 15.4

新機種 40.4
 能拡 10.5

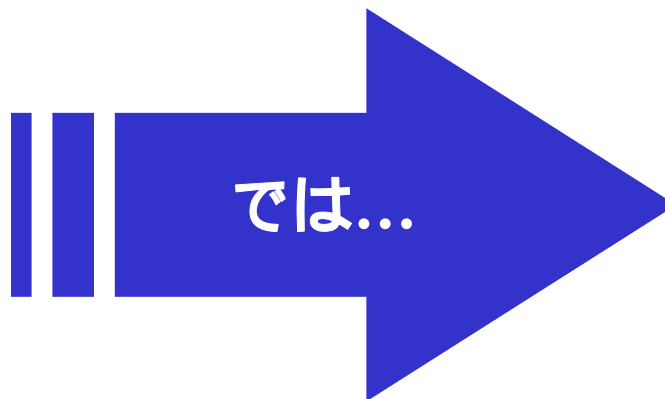


【05年3月期計画の主な内容】

	一般	新機種/能拡
【国内】 37.5億円		
- 完成車事業 (6.9億円) -	(6.9)	(-)
・ 体改・能拡	-	-
・ 省人・合理化	2.1	
・ 更新他	4.8	
- 部品事業 (30.6億円) -	(13.8)	(16.8)
・ 新機種金型・治検具		16.2
・ 樹脂塗装ライン体改(柏原)	4.9	
・ 省人・合理化・能拡	0.4	0.6
・ 更新他	8.5	
【海外】 36.2億円		
・ 新機種	(2.1)	(34.1)
・ SYC PFT導入		24.2
・ YZM 建屋・設備		7.7
・ SGM/GTA能拡		0.2
・ 更新他	2.1	2.0
【合計】 73.7億円	22.8	50.9

完成車事業

- ◆生産能力アップ
- ◆コスト削減

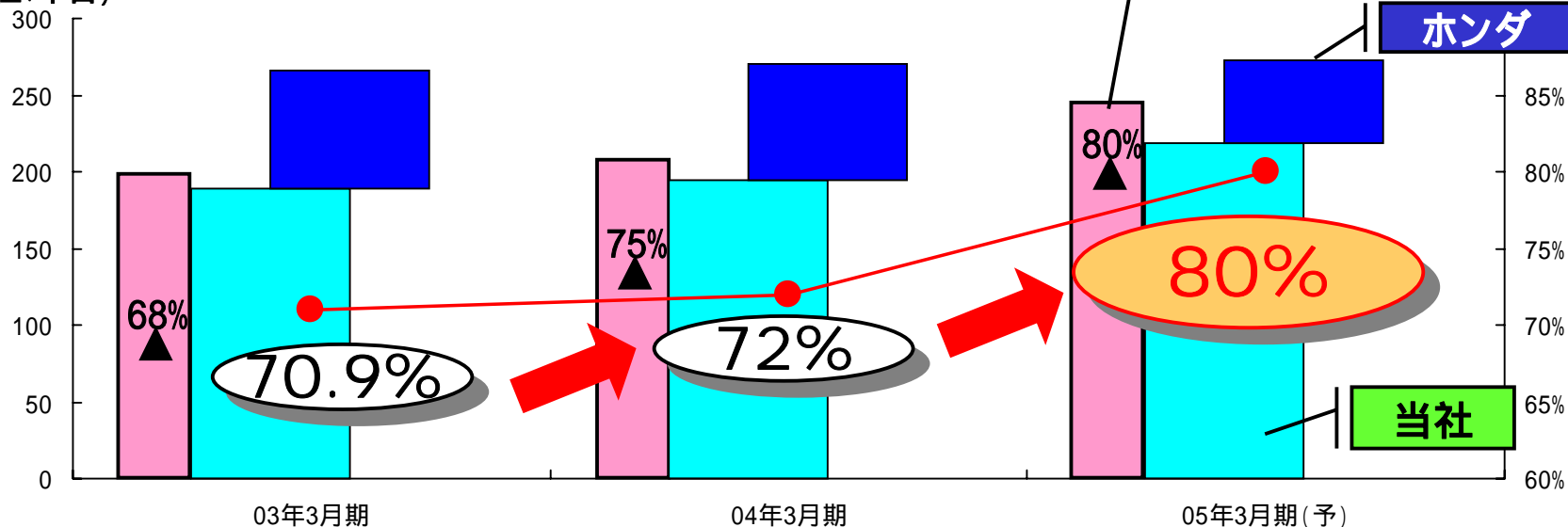


能力拡大と初期投資コスト削減を実現



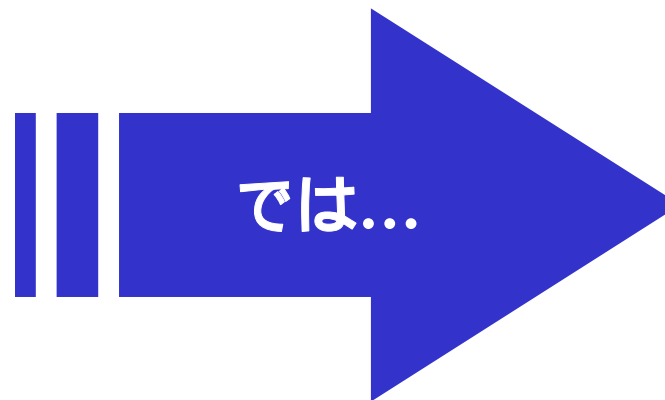
ホンダの軽自動車生産台数

(単位:千台)



部品事業

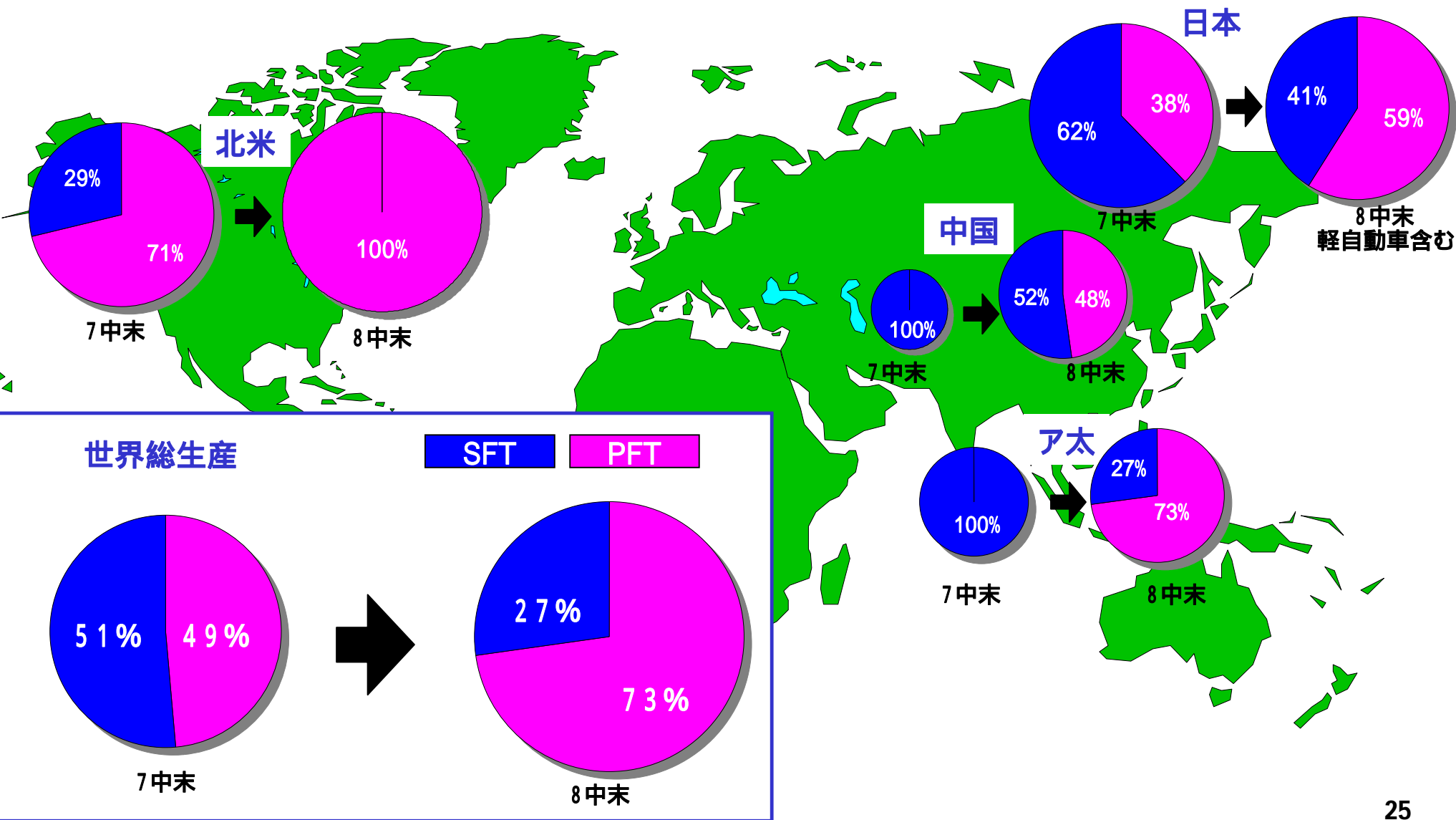
- ◆収益性向上
- ◆事業規模の拡大



ホンダ燃料タンク生産の動向

計画通り、生産規模拡大し樹脂タンク比率も拡大

ホンダ 世界 燃料タンク生産比率
(単位: %)



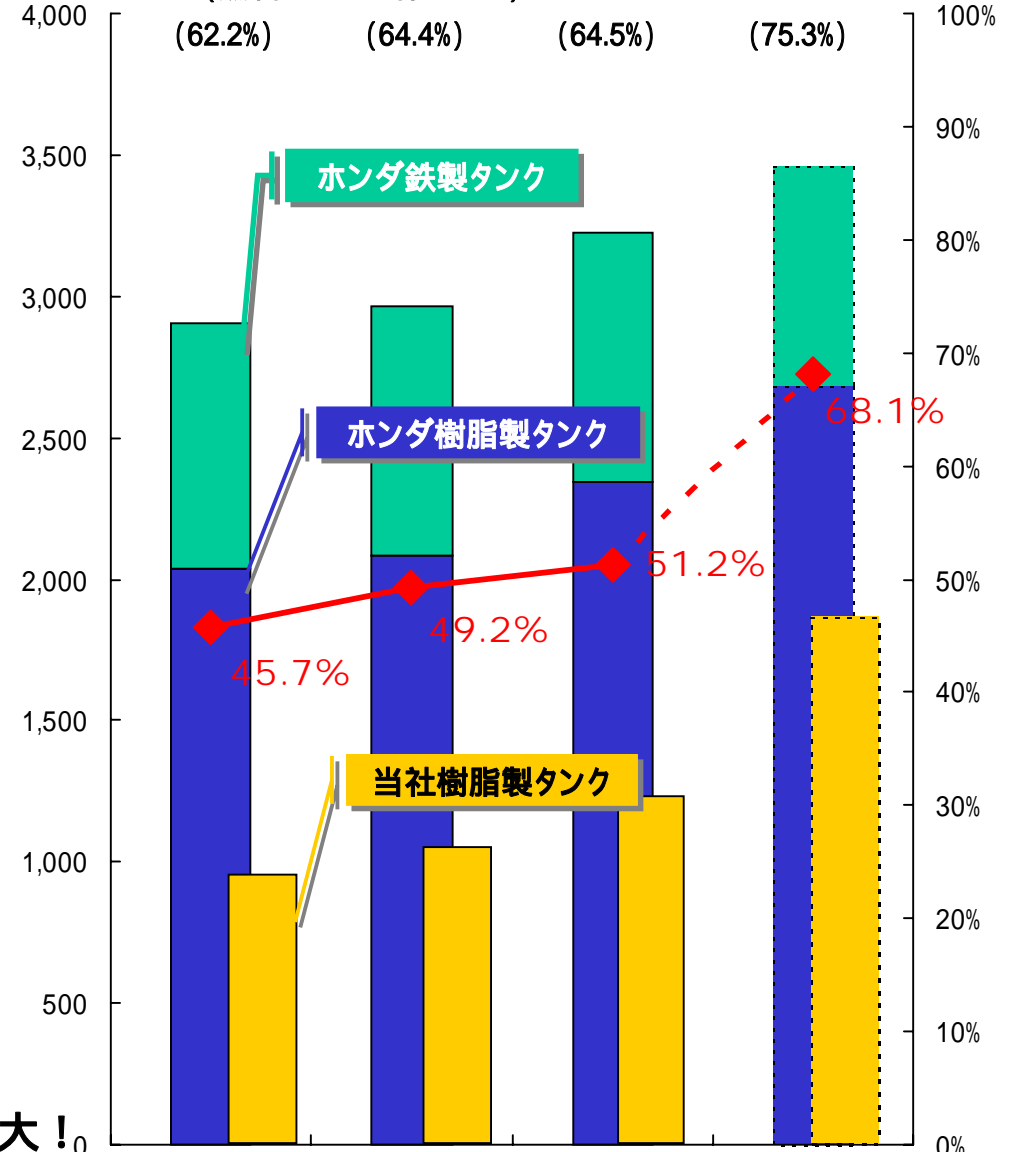
グローバル拠点拡大にて成長市場の足場づくり

エリア別の樹脂タンク生産能力拡大計画

	拠点	第8次中期計画			第8次 中期計画末 生産能力 (年間)
		03年 3月期	04年 3月期	05年 3月期	
日本	柏原	15万台			35万台
	亀山				40万台
北米	USY				80万台
中国	YZM				20万台
アジア	タイ				20万台

年間生産能力 **195万台** に拡大!

(単位:千台) (燃料タンク全体シェア)



生産効率の向上

機種切替ロス削減 (時間短縮 50%) ~ 二次加工サイクルタイムアップ
~ 段取り時間の短縮(金型・治具交換)

再生技術の活用 (再生比率UP 40 42% バリ比率削減 8%)

設備メーカーとの供創-予防保全によるトラブル停止1 / 10化(継続中)

廉価材の開発

信頼性検証による実用化にメド (材料費第2ソース JPE材 18%コストダウン)

ポストEVOH材の開発 (継続中)

小型マシン活用による設備投資削減

大量マシンの1 / 2化、中量マシンの実用化 9.8億 4.0億 2.5億円

少量マシン開発(継続中)

		鉄製 タンク	樹脂製 タンク	サンルーフ	その他 パーツ
国内	ホンダ				
	三菱				
	スズキ				
	ダイハツ				
	その他				
海外	ホンダ				
	GM				
	カナダ スズキ				
	その他				

< 国内 >

三菱自動車・・・ 樹脂製タンク納入中
鉄製タンク納入中

スズキ・・・ 鉄製タンクの受注決定

他カ - メ - カ - ... トヨタ・日産への定期的
訪問とプレゼン活動展開中

< 海外 >

GM・・・ サンルーフを中心に営業活動展開中

ホンダ中国・・・ 第2ステップ樹脂製タンクF / S及び
サンルーフF / S開始

ホンダタイ・・・ 樹脂製タンクでの進出

他カーメーカー・・・ 国内系列を超え、活動展開中

納入実績 営業活動中

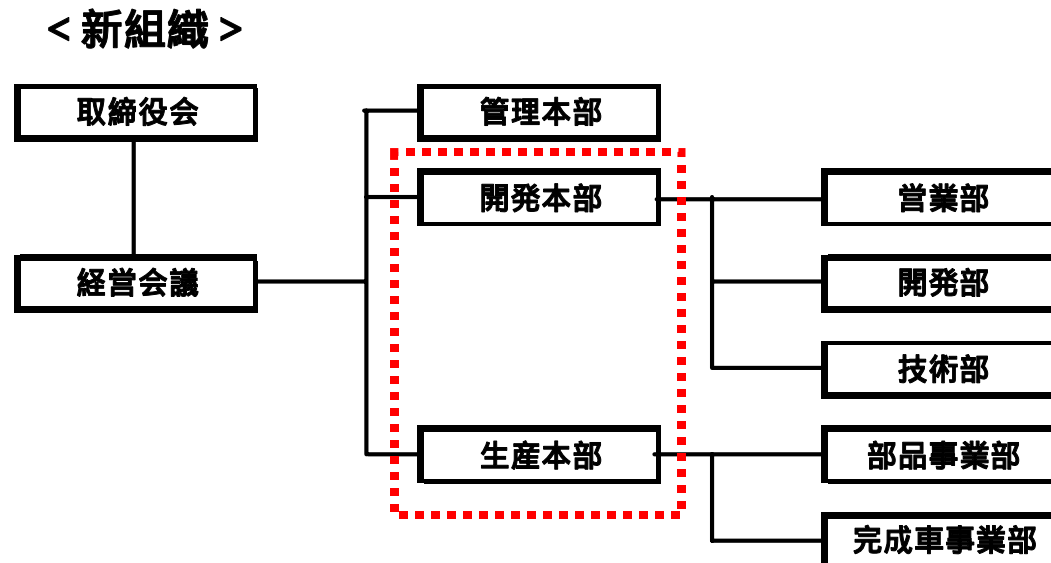
人材を活用し、部品事業の収益性を高める

完成車事業の体質改革で得た効率化ノウハウ【人材】を、
部品事業に活用し、全社的な効率化を図る体制へ

事業部門間横断型の組織体制に変更

生産本部・・・「ものづくり」視点より完成車・部品を統合

開発本部・・・開発力の向上に集中することを狙い新設



本資料のうち、業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいて算定しており、判断や仮定に内在する不確定性及び今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と大きく異なる可能性があります。尚、上記の不確定性及び変動可能性を有する要素としては、主に以下のようなものがあります。

- ・主要市場における経済情勢及び需要の変動
- ・為替相場の変動
- ・主要市場における貿易規制等の各種規制
- ・主要市場における政治情勢
- ・当社が事業活動を行う上生じる当社の責めに帰すことのできない様々な障害

2004年3月期 決算説明会



八千代工業株式会社(7298)

YACHIYO INDUSTRY CO.,LTD.

2004年5月12日

ホームページ: <http://www.yachiyo-ind.co.jp/>

問い合わせ先: 事業管理室 栗原 義弘
e-mail: yoshihiro_kurihara@yachiyo-ind.co.jp
TEL (04)2954-7331